

subsp. **pentamerum** (Maxim.) Sugimoto, l.c. p. 470 (1961)—*R. dergonianum* Carriere in Rev. Hort. **40**: 368 (1869)—*R. metternichii* Sieb. et Zucc.  $\beta$  *pentamerum* Maxim. Rhodod. As. Or. 22 (1870).—Azuma-shakunage.

Distr. Shinano, Kai, Musashi, Kōzuke, Shimotsuke, Hitachi, Rikuzen, Iwashiro, Echigo.

## 文 献

1) 奥山春季, 原色日本野外植物図譜 **2**: 58 (1960). 2) 橋本悟郎, 京丸牡丹を尋ねて. 植物趣味 **2**: 21 (1933). 3) 小笠利孝, 遠江京丸の牡丹. 植雜 **7**: 278 (1893). 4) 收野富太郎, 謂ゆる京丸の牡丹. 科学知識. **4**: 81 (1924). 5) T. Nitzelius, Notes on some Japanese species of the genus *Rhododendron*. Act. Hort. Gotoburg. **24**: 135 (1961). 6) 大井次三郎, 日本植物誌. 887 (1953). 7) 杉本順一, 日本樹木総検索誌. 470 (1961).

□ D.D. Pant and B. Mehra: **Studies in Gymnospermous plants—Cycas** 179 pp. Central Book Depot, Allahabad, India. Rs. 10.00 第1章序論。第2章分類。第3章ソテツ属(分布, 種類, 外部形態, 解剖, 生殖)。第4章ソテツ類。文献, 索引。この本は Allahabad 大学の Pant 及 Mehra 博士がソテツ属を中心としてソテツ類の分類, 分布, 外部形態, 解剖, 生殖, 用途などに関するまとめた総合書で, Chamberlain の The living cycads (Chicago 1919) の現代版ともいべきもので, その後の諸研究を探りいれてある。ソテツはインドで広く栽培されているのでこの種に関することが主軸となり, ソテツ属のインド産その他の種を以て補い, この属に関することが本書の  $\frac{2}{3}$  を占め(第3章), ソテツ類の他の属については比較的簡単に解説している(第4章)。授精の項において「纖毛のある動く精子による授精の現象は 1896 はじめて日本の植物学者池野によって報告された。種子植物におけるこの現象の存在は極めて重要なことで, この発見は 19 世紀最終期の最大の形態学的事件と称せられた。云々」と述べ, また末尾の系統については, 石炭紀のシダ種子類のあるものに起因し, ベンネチテス類との関係についてはともに共通の祖先を持つか平行進化の結果生じたものだろうと結んでいる。要するにソテツ類に関するよい参考書で画が多く, 文献も広く列挙されているので都合よい。ただ憾むらくなれば紙質がやや悪いためか挿画の印刷に拙い点があり, 封の図版にある竜華寺の大ソテツの図も何となく物足りない感がある。因みに著者の1人 Pant 博士は最近デボン紀の *Rhynia* の体が胞子体でなくて配偶体であるという新説を唱えた人である。

(小倉謙)